

絵画修復家の アトリエから

加賀優記子

絵画修復家

かがゆきこ●絵画修復家。大学卒業後、絵画の古典技法を学ぶためにパリに留学。ルーブル美術館の絵画修復員を経て、現在は藤沢で修復工房を主宰。

HP : kamakura-syufuku.com/

9月に入って、台風12号がやたらとゆっくり日本の西側を縦断している。昨夜のニュースでは、岡山や鳥取が記録的な降雨量のために、ひどい水害に見舞われたらしい。

岡山と言えば、3月11日から、日本列島の断層マップなんかを睨んで、断層や地震、原発が無くて、安全そうだし、新幹線も通っているし、移住するにはここがいいんじゃない？なんて家族で話し合っていた県だ。

私と子供はその後、夏休みに入り、結局子供の「放射能抜き」と「英語の学習」を兼ねて、1か月半程をオーストラリアのケアンズに滞在する事になったのだが、そこで知り合った皆さんに、「ケアンズは今年の2月に、ヤッシーというまるでアメリカに壊滅的な被害をもたらしたカトリーナのように、超ド級のハリケーンが直撃しそうだったのが、奇跡的に逸れた」と言う話を聞かされた。ホテルに戻ってネットで確認し、私は本当に驚いた。「大変だった。」という、言葉の説明より、視覚的な方が、「凄まじさ」は判り易い。その逸れたというハリケーンの衛星映像は、まさに私の「自己防衛本能」のピコピコランプを稼働させた。何ちゅう大きさ！これじゃあ馬鹿でかいオーストラリア大陸がすっぽり入っちゃうじゃん。もし真っ直ぐに大陸縦断したら、国民がどこに逃げればいいっていうのよ、って感じ。しかも風速248メートルあったって書いてある！ 2…248？

昔、グアムで風速100メートル超のハリケーンのために、マリオットホテルかなんかがひどいダメージを受けた写真を、現地で見たとある。しかし240メートル超では、マリオットだろうが、ジャングリラであろうが、跡形もなく吹っ飛ぶだろう。「だから、死ぬかな～と思ったのよ、でも地震よりはマシね、ちゃんと政府が前もって危険を知らせてくれるし、逃げる暇もある。」そうだろうけど…でもさ、次回そんなやつがまた来たら、下手をしたら飛行機だって飛べなかったり、満席だったら乗れないこともある。ケアンズって他には超ノロノロ自動車ポッポしか私は見たことがないんだけど…。車で世界遺産のジャングル尻目に走ったって、隣の都市に行きつく前にヤラレテしまいそう。しかも世界一の毒蛇だって突風に煽られて飛んでくるのよ!? (うそ。)(ほんと?!)それに、昨今のオーストラリアは地球温暖化の影響をもろに受けて、洪水の被害が続出している。ここで膝上浸水なんてことになったら、獰猛なソルト・ウォーター・クロコダイルちゃんたちと仲良くトコトコ音のする横断歩道で信号待ち？なんてことになるんだろうな、と娘と話していた。だって、この間、娘とのんびりしていた町はずれの広場に、平気でワニが出没するような街なのだ。

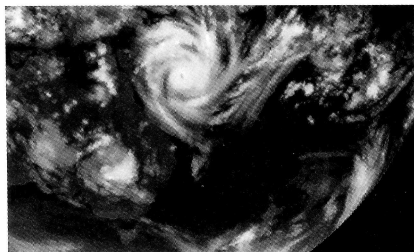
娘は、英語学校に、「日本では、いつまた巨大余震が起きて、海外に逃げないといけなくなるかもわからないのだから、英語ぐらい話せる人間になっけ！」という私からのキツイ至上命令で、渋々行くことになった訳だが、でも、案の定というか、8歳のお転婆娘は、同級になった外国の男の子達と、喧嘩をするための、「使えないロクでもないボキャブラ」しか、結局、習得しなかった。それでも、サバイバル魂は、ちったあ学習できたのでは、と、私はこれでいいのかもしれない、と諦めているのである。何しろ帰国してすぐ見たテレビニュースは、アメリカでもちょっと大きい地震が起きて、そこの原発の外部電源が一時ダウンしたって話だった。

ケアンズでも、この9月の西日本にも、何処にでも危険は存在していて、実際世界には安全な国なんて存在してないのね、と悟った私なのであります。もう、ワニが居ようが、怖いあんちゃんが居ようが、地震、雷、火事、原発、どんな危険もいち早く察知、お前は頑張って生き延びるんだよう、と最後は娘に叫んでしまった。

と、言うのがお子様バージョンのお話。

大人バージョン話としては、いくら円高と言っても、物価のバカ高いケアンズ、(ジュース一本が400円以上もする！)大事に取っておいた残りの日本円の札束握りしめ、両替のギリギリタイミングを見計らっていたものの、すぐに第一回目の両替した資金は底をつき、敢え無く高いレートでチェンジ、した途端に、世界経済メルトダウンで、またものすごい円高に！さすがにお次は良いレート。でも、もう遅いじゃん！と、がっかりしたのと、本当にこれから仕事ヤバイねえ、とクライイ気持ちに南国に居ながらにして、溜息が出てしまった。

去年の春、20億円のピカソの大作を、修復したのが、まるで「最終記念」だったかのように、この数か月間は、「私って修復家だったっけ？」と思ってしまうほど、大きなお仕事が来なくなった。こんな事ではいけない、何とか営業頑張らなくては、と決意を新たにしていた時に、地震発生。またも心がべしゃんこに…。そんなアタシは、ケアンズの海岸線を歩き、フラフラ～とアボリジニの作品のあるギャラリーに入って行き、じっと作品を見る。数千もある白いポツポツが、ぐるぐる渦を巻いた様な絵だ。その膨らんだポツポツ点の、マチエールの中心点に、絵具が乾く際に来る、収縮凹みが無いのが不思議だ



日本の気象衛星ひまわりが捉えたサイクロン「Yasi」の画像。左下が豪州大陸。

った。どうしてかな、アボリジニ秘伝の絵具の調合なのかな？ それにしても、これが全部変色したら、補彩大変だろうな、とボソッと呟いてハッと、「いかんいかん、」と首を振る。こんな事を考えて、アボリジニの絵を見るのなんて、アタシくらいだろう。「こんなところでこんな事考えるなんて……無意味だ……。」と、引退したボクサーのような気分でギャラリーを出る。

またまた海岸線を歩いてベンチに座り、ほーっとしてしていると、隣にアーチストっぽいお姉さんが。何だか気が合って1時間ほど英語でおしゃべりしているうちに、私が修復家であることを知って、「ブリスベンなら、修復の仕事あるかもよ。」って言う。何で？と聞くと、「洪水がひどかった川沿いの地区は、お金持ちの家が多かったからね、そういう人は絵を飾っているでしょう？」と。まあね…そうかもね…でも私は被害に遭った人や美術館に、仕事があるか聞きに行くのは嫌なのだ。あの地震の日だって、まさか銀座に「傷んだ絵はありませんか〜」って聞きに行くなんて、絶対嫌だった。

と、言う事で、暇な私は、グリーン島というサンゴ礁の島に出かけて船酔いでぐったり。デッキチェアでくたばっていた処に携帯電話が鳴り、唐突に日本から仕事のオファーが!! 「ほげ! ぐえ!」と、何と自分が答えたか、あんまり覚えてない。キモチ悪すぎて…。

最後に、「いつ、日本に戻りますか？」と聞かれて、返答に困ったのだけは覚えている。「え〜っと。は、はは、あの、あと3週間くらいかな……。」「…なんか、随分先ですねーセンセイ。そんなにゆっくりしてていいんですか?」「だって…もうすごい暇だと思ってたんだもん。ゴメンナサイ…私の事、待っててくれます?」

とにかく、9月に仕事あって良かった。何しろ続々とビザカードの請求書が横文字で来ているから。あの日、船酔いで潰れて帰れなくて、しょーもなくて泊まったグリーン島のホテルの請求書が。